

# みんなの居場所

## 頭の体操コーナー

裏に頭の体操クイズを載せています。  
小学校で学習することをベースに作っています。出来る出来ない関係なく、ご家族でチャレンジしてみてください。会話が広がります。

令和7年4月21日(月)



### 交通安全に寄せて

先日、樺公民館前で交通事故が起ったことについてお知らせしたところで、16日水曜日には我が家のすぐ近くで交通事故が起っていました。改めて事故の怖さを感じたことです。学校では大型連休を前に交通安全教室が行われ、交通ルール等について学習を行ったところです。私も小学4年生の時に交通事故に遭ったことがあり、幸い大怪我はせず済みましたが、それ以降、確認等をしっかり行うようになったことを思い出します。実はこの事故の原因は、私達の「飛び出し」でした。私は事故の経験から学びましたが、事故に遭ってからでは遅いということも承知の通りです。GW前にご家庭で再度子どもたちと一緒に交通ルールやマナーについてお話しして頂き、春の楽しい時間を送ってほしいと思います。

### GW「調子に乗るな」1JY

「ルールン・ウィーク(GW)目前です。昨今の物価高では家庭でも計画が立てにくいかもしれませんね。私達田舎者が嫌いで、多分どこへ行かす。家で「ロロ」が近所の立田山ウォーキングです。いやいや、フニテルを作つた、積読をよめて読書をしよう、いや育てているメダカのフニを洗おう…。やりたいことはたくさんあるのですが、先立つ物が無いので、出来るだけ「ムスバ」が良いものを選んでしまつて私です。

さて、GWは私たち教師にとって心配な時期でもあります。自由な時間とお金が回る時期といつてもいいでしょう。また、夏休みや冬休み等とは違って、4月の慌しさを過ぎ緊張感も下がって、羽を伸ばす子どもたちも多いのです。羽を伸ばすといふと聞くと良いのですが、度を越えた行為については、大人が厳しく対処しなければなりません。分かりやすい言葉で表現する「調子に乗るな」といふように言えなえ。私たち教師もGW中は休養も取りますが、「生徒指導アンテナ」の感度を下げる時期でもあります。是非互いの指導を行う時期です。

担任時代にも何度も話していたのですが、ここでもお話しします。なぜ子どもたちのルール違反や生徒指導上のトラブル、安全面でのトラブル等について、我々教師が厳しく指導するのか。それは、私たち教師の経験に基づいています。これまで多くの子どもたちを担任、指導させて頂いた中で、その子どもがどのような進路をたどるか、あるいは家族がどのような思いをされるのを知っているからです。これまで書けばお解かりだと思いますが、やはり生徒指導上のトラブル等は、将来の本人や家族に大きな影響を与えるからなのです。逆に、物事を正しく判断し、ルールをきちんた守る子や思慮分別のある子はルール違反もありません。君子危うきに近寄らずで、危険を回避(ルールを破る)前に行動を修正します。その力は正に生きる力といつてもいいでしょう。また、ルールを守る事が出来ない、将来の自分の可能性を低くしていることにもなります。そのことを大人は伝えなければなりません。その最前線が保護者である皆様であり、私たち教師であり、地域住民の皆様でもあります。楽しみながらGW、子どもたちが、保護者の皆様が有意義なGWを過ごせることを祈っています。

### シリーズ「自分を語る」#4

早速このシリーズに反響を頂いています。有難い限りです。さて、幼少期というのは誰でも定かな記憶はあまり無いのではないかと思います。それでも思い出す経験は深層心理に根付いて、現在の言動にも影響を与えているのではないのでしょうか。一昨年、前任教でPTA主催の4・5・6年生強歩会を行ったのですが、強歩会そのものの企画や指導に私も参加させて頂きました。担任時代に経験があったからです。その根底にあると思われるのが、今からお話しする経験です。

この経験は私の記憶の中に、かなりの鮮明に残っているものです。幼稚園に行っていた頃ですから、私から歳の時の話です。熊本市の坪井に伯母夫婦の家があり、私はその近くの幼稚園に通っていました。通園バスに乗って当時住んでいた新地団地から坪井までの道を眺めるのがとても楽しかったです。そしていつの間にか経路を覚えてしまっていたのです。両親は共働きでいたので、私たち兄弟は夕方伯母の家に預けられていました。当時、弟は3歳でした。両親は共に中学までしか出ておらず、体を動かして働く事しかできなかった。「言いつて、よく働いていたからね。成程、父は午前中水道配管の仕事、午後からはパン工場の仕事、母は私達を連れて伯母夫婦が経営していた設備会社の手伝い、午後から内職というハードスケジュールをこなしていました。高度経済成長の真っ只中ですから、両親は働いてくれたことがとても懐かしそうに話しています。

さて、ある日の夏の休日の出来事です。久しぶりの休みだったので、母は私たち兄弟を連れ、伯母の家に行くことになりました。従兄弟がいるので私達も楽しみにしており、場所もよく分かっているものだから、私は母に「言いました。」「先に行つてくわ。」「これがいけません。」「母は「時計屋でたに行つてすぐに戻るか。」「言いつて、私達と別れました。時計屋でた、当時の私にこの時計屋とは、鶴屋パートに行かないと無い場所でした。」「母は鶴屋に行くんだ、いいな。」「と思いつた伯母の家へ向かう私たち兄弟。しかし母はずい近くのマーケットの中にある時計屋まで、電池の交換だけをするために行つたのです。

伯母の家で呼び鈴を鳴らして、暫く待ちましたが誰も出てきません。数回呼び鈴を鳴らしたと思います。段々不安になってきました。弟が泣き始め、私は「うっしょもな、とにかくききました。」「鶴屋は遠いし、弟が泣いているのを考えると早く母に云いたい。バスに乗るような知識も金もない、…よし歩いて家に帰る。」「何とそんな危いことになるのかと叱られそうですが、泣きじゃくる弟を連れながら私にとってはそれが最悪だったのです。(〇〇〇〇)